

呉駅周辺地域総合開発に関する懇談会 第3回会議 摘録

1 日 時 平成31年1月21日（月）10時～11時30分

2 場 所 呉市役所本庁舎 757・758会議室

3 概要・骨子

10:00

【市長挨拶】

皆さん、おはようございます。呉市長の新原でございます。

今日は、「第3回呉駅周辺地域総合開発に関する懇談会」に貴重なお時間を割いてご出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、昨年は7月豪雨災害がございました。現在市民の皆様の意見を伺いながら、今日の中国新聞の呉版にもワークショップを開いたという記事がありました。そうした過程で市民の皆様の意見を伺いながら、また関係機関の意見を伺いながら市民の皆様と職員が一緒になって復興に取り組んでいるところでございます。また、復興計画につきましては、本懇談会の座長を務めていただいています羽藤先生に、復興計画検討委員会の座長を併せてお引き受けをいただきまして、策定に向けて議論を進めていただいているところでございます。今年3月までに復興の全体計画、そして9月までに地区計画を策定することを目指しています。

復興の目指すべき姿としましては、被災した市民の皆様が当たり前の生活を少しでも早く取り戻すこと、そして、呉市が災害以前にも増して、安全で安心な、魅力的で元気と賑わいに満ちた都市として復興すること、それによって、観光客を始め多くの人々が訪れてみたい、住んでみたいと思えるような交流都市となることとございます。

7月豪雨災害を受けましたので、呉駅周辺地域総合開発の重要性が格段に高まったと考えております。災害に強い街になるために呉駅周辺でどのような役割を果たしていくのか、それから元気と賑わいのある魅力的な街になるためにも本懇談会の検討、駅周辺をどういう姿にしていくのか、市全体の中でどういう連携をしていくのかは極めて大事なことでございます。

また、本懇談会には、今年度末に提言をいただきたいと思っておりますので、今日の会議は大変大事な会議になると存じます。どうぞ活発なご審議をいただきたいと思っております。

それから今日お出しした資料、あるいは今日の議論につきましては、この後、記者の方にもお配りして説明しますし、ホームページにも出来るだけ早

く載せて、資料・議論の中身について市民の皆様にも出来るだけ見ていただけるようにしていきたいと思っております。市民の方にできるだけ関心を持っていただけるような工夫をしてみたいと思っております。これまでの資料も全部出していますが、必ずしも市民の方に浸透していないという状況もございます。せっかく皆様にご審議いただきますので、その点も大いに努力をしてみたいと思っております。今日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

10:05

【資料2について事務局からを説明】

市場ニーズ調査の結果と開発の検討（案）について

10:35

【質疑・意見交換】

委員からの主な意見は次のとおり

1. 市場ニーズ調査について

- 年度末に懇談会としての提言を行うが、その内容を市民や開発業者に伝えていく必要がある。駅周辺でイキイキとした新しい街を作ろうと考えていることを理解してもらえば、今回のニーズ調査の結果は変わってくると思う。
- 呉駅周辺が変わることで、子育て世代やライフサイクルステージごと、あるいは観光客や事業経営者など色んな方に変化をもたらす。そこを見えるようにしていくと、第1次時点のニーズ調査とは変わってくることになる。
- このプロジェクトに関して具体的にイメージされ、真剣に回答いただけたのかどうかは不安な面もある。回答いただいた方に真剣に答えてもらえるよう、このプロジェクトの本気度を示していかなければならない。そのためには、市民がこのプロジェクトに対してワクワク感を持ってもらうことも必要であり、そのための仕掛け・取組を考えていかなければならない。
- 市民で住み替えを考えている人、例えば高齢者や子育て世帯など、住んで欲しい方がいると思うが、その人たちへのニーズ調査や、ホテル・商業

など具体の中身についても商業系のディベロッパーの方にニーズを調査すべきではないか。

- ニーズ調査により数字を出すことで議論が深まったと思う。一応この数字を根拠としながらももう少し更に議論を深めていけたらと思う。

2. 提言内容の市民への周知について

- 提言内容を市民へ伝えていく際には、パースが必要ではないか。3DCADで描く鳥瞰図では市の考えが伝わらないと思うので、市民の目線、相手の気持ちに沿ったパースなどを作成することが必要ではないか。
- この構想を市民にどう伝えるかが重要である。
- 具体像を市民に意識してもらうのは重要である。そのような場として、是非フォーラムの開催を検討してもらいたい。

3. 駅前機能の在り方について

- デッキ整備にはかなりの経費がかかる。できるだけ民間の力を借りて、お金を出してもらえるような開発計画を考えていかないといけない。そうした場合、ここにどれだけ人を呼んで商売ができるのかが実現に向けては大きなポイントになる。そこがまだ見えない。デッキを憩いの場として、その人たちを対象とした飲食などのお店が自由に張り付けられる場だということを全面に出して、ディベロッパーに自由な発想をしてもらうこともこれから考えた方が良い。
- この地域を2核1モールにしていくためには、海側はゆめタウン、大和ミュージアムがある。駅側にももう少し商業的な核があって、足下客を増やすことも必要。デッキにより地域内の動きは活性化してくるし、そこに次世代モビリティが入ってくる。それによって2核1モールエリアが活性化してくる。それがさらに他の地域に色んなモビリティで観光客も繰り出していく。核の商業がないとにぎわい広場も充分に理屈がたたない。その理屈が立つようなストーリーづくりが必要である。
- 1期計画でどのような規模の建物を建てるかにもよるが、2期計画にあ

る駅ビルのクレストとどう相関するのか、それらを踏まえて商業機能をどうするのか。1期計画の段階から考えておく必要がある。

- 公益施設として、できるだけ市民に利用されやすいような施設，例えば会議室的なものを考えてはどうか。広域から市民が集まりやすい拠点とし，バス利用の促進と連動させることもできる。
- 駅周辺の利用者は地元の方や観光客など様々な方がいる。地元の方の利用を考えると，高齢化が進む中，健康寿命を伸ばすために高齢者の外出機会を増やすというのが考えられる。また，観光客は乗り換えをする場合に必ず待ち時間が生じる。その待ち時間をどう使ってもらうのか。例えば，地元の産品や地域の成り立ちを見てもらうとか，ユーザーが何を求めているか想定して考えていく必要がある。
- 年度末の提言にどこまで書けるかは別として，市・国・JRのみんなが一緒にやっ払いこうということが発信できると，この構想はより具体的になる。
- JR西日本は鉄道安全考動館という尼ヶ崎の事故の体験を博物館のようにして各地から研修者を受け入れている。呉の災害をどのように市民の教育やツーリズムにつなげていくか，非常に参考になると思う。こうした点でもJRのノウハウと連携することが可能と思われる。
- 宿泊に関しては，デッキを活用した海側との連携などの物語を作っていくことも重要ではないか。

4. 駅前整備の進め方について

- 今後の関係者との合意形成を進める上では，時間軸の考え方をしっかりイメージしておいた方が良い。

5. 交通機能，ネットワーク（M a a S等）について

- 観光客に歩いて，あるいは自転車等で回遊していただくためには，駐車場の配置が重要である。また，観光ルートの形成については，モビリティと自転車の分担についても検討の余地がある。

- M a a Sについて、出来るだけ車を単独で使うのではなく、使うにしてもトリップチェーンの1トリップにして全体としては利用者が利用しやすい交通機関に乗っていただく。その手段としてM a a Sを使う。
- このエリアに住めば車を持たなくても子どもを遊ばせられる、どこかへ送り迎えもできる。2階のデッキを介して1つの生活圏が出来るみたいなことも目指せる。車を出来るだけ持たせない、持つにしてもみんなで乗合をする。そして呉の拠点間の連絡は、次世代モビリティを使う。そのようなまちづくりを進められると良い。
- 分散型の滞留都市のような、例えば安浦は土壌が良いので煮くずれしない子芋がとれる。高いけどおいしい。そういうのが付加価値になる。呉には8つの造り酒屋がある。それぞれ味が違い、島でも作っている。お酒を飲むと車に乗れないがそういうところを滞留していくイメージ。それぞれおいしい水がとれるから良い酒が作れるが、そういうところは災害の危険もある。そういうところをモビリティでつなげ、ハブとして呉駅がそれを受け止めるという全く新しい拠点になっていく。そういうイメージを共有したい。

11:25

【確認事項】

- これら意見を、各委員、事務局が持ち帰り、調査・検討を行い、次回に向けて更に議論を深めていくことを確認

11:30

【散会】